

ココロがトリコ！ 子育てしやすいトカイナカ 働き盛り世代を惹きつける高感度のまちづくり

人口減少時代の端緒に《躍進》で対処

今年7月初旬に岡山県・広島県など西日本
一帯を襲った記録的な大豪雨、関西国際空港
の被災・閉鎖が衝撃的だった台風21号の襲来
(9月4日)、さらには最大震度7を記録した
北海道胆振東部地震の発生(9月6日)など、
この夏の日本列島は例年にも増して巨大な自
然災害に次々と見舞われた。

実は和泉市ルポの取材(8月23日)も、「非
常に大きな勢力」と予告されていた台風20号
の、近畿地方上陸の間隙を縫うような形で
の実施となった。和泉市のご協力で、運よく昼
間の取材は予定通りに終えることができた。
しかし、取材の最中にも携帯には周辺都市か
らの「避難指示」「避難勧告」の防災メールが頻
繁に送られてきた。

実際、昨年10月21・22日の両日には、台風
21号による大豪雨に見舞われ、市内150カ

所以上で土砂崩れや冠水など大きな被害が発
生した。また、今年の台風21号(9月4日・
5日)においても、暴風で多数の電柱が倒れ、
市内4万2500軒(最大)で長期間の停電、
公共施設の破損(約55カ所)・倒木による通行
止め(約20カ所)などの被害が発生した。

市職員に話を聞くと、「市内でこれだけの
被害を経験したことがない」という。確かに、
和泉市はこれまで大きな災害被害は少なく、
内陸の自治体であるため、津波の危険性も比
較的少ない。

平野部の続く北部は堺市と接しており、そ
の一方で南部は和歌山県と接している。大阪
市内にも和歌山県にもアクセスが便利なのが
特徴といえる。

「和泉市は大阪市の都心部から25km圏内、
関西国際空港からも約20kmと非常に利便性の
高い地域で、特に1970年代半ばからは
ニュータウンの建設を中心に人口急増した、
準都会的なイメージがあるかと思われれます。

つじ ひろみち
和泉市長



実際に都市化は
かなり進んでいます、一
方では今も豊かな自然が残
された地域でもあります。

例えば南部地区の槇尾山一帯は金剛生駒
紀泉国定公園に指定されています。平野部
の集中する北部には、絶滅危惧種を含む動
植物や大小の池沼群を擁する、信太山丘陵
があります。

南北に細長い市域は、ベッドタウンとして
発展してきた北部・中央部の市街地(平野・
丘陵)と、ミカン栽培でも知られる南部の山間
地帯に、大きく区分することができます。



田園地帯から和泉中央地区のニュータウンを遠望



平成30年4月にオープンした「和泉市立総合医療センター」

平成30年4月にオープンした「和泉市立総合医療センター」の今年4月のオープンもその一つだ。同センターに関しては、経営難の続いていた旧市立病院を2014年に指定管理者制度（指定管理者は医療法人徳洲会）に移行させ、民間手法による経営、施設整備（建替え移



転を進めてきたという経緯がある。診療科も旧市立病院の16科から32科に倍増。指定管理の始まった当初の医師数41人がやはり82人へと倍増した事実が象徴するように、「完全に生まれ変わった」（辻市長）のだ。中でも307の急性期医療向けの一般病床は、直近のデータでは100%近くが常に稼働している状況だが、特筆すべきは4月の開院以来、平均入院日数がわずかに13日程度で推移していることである。急性期病床の診療点数は入院14日目までの加算率が最も大きい。入院日数の平均が13日ということは、ほぼすべての入院患者に最大加算がされる。それについて常に100%近い稼働率を示しているのは、経営の効率化が進んでいることを意味する。医療的努力と経営努力の融合による、こうした「体質」を構築できている公立病院は全国的にも少数派であり、「和泉市立総合医療センターがこの上ないスタートを切ることが

和泉市内を流れる河川としては横尾川、松尾川があります。昔ながらの豊かな自然風景を残しながらも、大阪市内から近く、大型商業施設もあり、都会と田舎が融合しているのが特徴です。和泉市のシティプロモーションのキャッチフレーズでいえば、まさにトカイナカ（都会+田舎）なのです（笑）」

そう語る辻宏康・和泉市長は2009年6月に就任。3期目の現在は《躍進》

をスローガンに市政運営を進めている。「和泉市は一昨年、市制施行60周年を迎えました。市制施行時に5万人だった人口は、その間に18万7000人にまで増えました。しかし、常に右肩上がりだった人口動態は、現在、少しずつですが減少傾向にあります。昨年から始まった3期目の市政運営のスローガンを《躍進》としているのは、こういう時期だからこそ逆に、躍進を図るぐらいの積極性を発揮することで、将来的にも発展をある程度維持できる《推進力》を保てるのではないかと。そのように考えてのことなのです」

実際、和泉市政

の現在の動きを見

ると、ポジティブ

な要素が目立つ。

例えば《和泉市立

総合医療センター》

の今年4月のオー

プンもその一つだ。

同センターに関し

ては、経営難の続

いていた旧市立病

院を2014年に

指定管理者制度

（指定管理者は医

療法人徳洲会）に

移行させ、民間手

法による経営、施

設整備（建替え移



市制施行60周年を記念して行われた大迫力の「だんじり曳行」

できた(辻市長)のは、この点を取り上げただけでなくも明白だ。

「住みたい街人気」常連の理由と発展の軌跡

辻市長が就任以来常に懸案としてきた旧市



観光振興キャンペーン(香港)で活躍の和泉市イメージキャラクター「コダイくん(左)とロマンちゃん(右)」

立病院の改革と再出発は、このようにして見事に軌道に乗った。そしてもう一つ、市民の安心安全な暮らしの要として、辻市長が就任以来の懸案としてきたのが、防災拠点を兼ねた新市庁舎の建設計画だ。この事業も現在一気に軌道に乗ろうとしているが、その話題は後に触れるとして、市制施行後の60年間に和泉市が経験してきた、驚異的な発展の軌跡を改めて振り返っておきたい。

和泉市は1956(昭和31)年9月1日、旧和泉町など1町6村の合併により、大阪府内23番目の市として誕生した。4年後の1960年には旧八坂町・信太村と合併して、ほぼ現在の市域(東西約7km、南北約19km、面積約85km²)となった。旧和泉町を継承した和泉市の名称は、律令時代に和泉国の国府が現・府中地区に置かれていたと伝えられてい

ることに由来している。平安時代には熊野街道が造成されるなど、和泉の地は古代から開けていた。さらにそれより遙か以前の旧石器時代の遺跡や弥生時代の環濠集落「池上曾根遺跡」もある。海にも比較的近く、また日当たりがよく丘陵地帯の多い和泉の地が古来、いかに暮らしやすい環境であったかが、これらの歴史的遺構からも分かる。

そんな由緒ある来歴を持つ和泉市が、ベッタウンとして大きく変貌し始めるのは、1970年代後半からだ。

大阪の都心部まで約25kmと元々交通至便な和泉市の宅地開発は、1960年代後半から既に始まっていた。人口も1971年に10万人を突破するなど順調に伸びていた。そうした動きを一気に加速させたのが1976年に決定した、UR都市機構(旧日本住宅公団)によるニュータウン(大型住宅・産業都市)の開発計画(トリヴェール和泉として、事業期間は1984年12月から2014年3月まで)だ。さらに和泉市が市制施行30周年を迎えた1985年には、研究学園都市機能を持つ工業団地・テクノステージ和泉の開発が決定する(1998年から分譲開始)。

こうした動きに付随して、1993年には阪和自動車道・岸和田IC(堺IC間が開通、1994年には関西国際空港(第1期)が開業、1995年には泉北高速鉄道の和泉市への延伸とともに和泉中央駅が開業したほか、同年には桃山学院大学の和泉市への全面移転

も完了した。

このように一つ一つ事例を挙げていけばキリもないが、和泉市は大阪万博(1970年)以降に拍車の掛かった、大阪都市圏の拡大の潮流に乗り、成果を上げ続けてきたといえるだろう。和泉市が人口18万人を突破したのは2003年だが、人口増加率はその間、常に大阪府下でもトップクラスを維持してきた。

しかし、目標としていた20万人に届く前に、人口は近年、漸減傾向を示しつつある。また、ニュータウンなどの大型宅地開発に伴い、そのつど当該地区で集中的に人口を増やしてきた歴史もあり、地区によって、人口密度や市民の年代構成の偏りも進んでいる。

これらは和泉市において大きな課題ではあるが、まちの前途は決して暗くない。2015年度実施の最新国勢調査においても、全国の人口構成と比較すると、若い世代の人口比率が高く、ほかの多くの都市とは違う人口構造を示しており、それは現在も続いている。

実際、民間の住宅情報サイトが行った近畿圏版「買って住みたい街」ランキングに「和泉中央」エリアが上位に位置付けられるなど、特に働き盛りの子育て世代に高い人気を誇る事実は、和泉市のポテンシャルの大きさをよく物語っているといえるだろう。端的にいえば、それらの事実は、住環境が優れていることや、地元および周辺地域に雇用の場が豊富にあることの証明でもあるからだ。

義務教育をより充実させる 小中一貫教育の実現

「現在の和泉市における最大のポテンシャルは働き盛りの世代が多いことであり、今後さらに拡充を図る必要があるのは、次代を担う子どもたちを安心して生み、育てることのできる、より一層優れた環境づくりだと考えています。

住環境と雇用環境が揃えば子育て世代はある程度集まってくれますが、それをバランスよく進めるには『子育て・教育』施策の強化が

不可欠です。そのことを教育面から再認識した事例として、例えば昨年4月に開校した、大阪府内でも2番目となる施設一体型・義務教育学校『南松尾はつが野学園』の存在が挙げられます」

和泉市は、2012年度から市内の10中学校区で施設分離型の小中一貫教育を進めてきたが、昨春「南松尾はつが野学園」を開校し、市内初の施設一体型の小中一貫教育に取り組んでいる。

これは、働き盛り世代を中心に、市への転入者が和泉中央地区とその周辺に集中する一



平安時代に造成され市域北部に残る熊野街道



国宝2点、重文29点など収蔵の「和泉市久保惣記念美術館」(所蔵するモネの「睡蓮」にちなんだ池)



市制施行60周年記念行事「手持ち花火同時点火最多人数」でギネス世界記録を達成！

方で、同学園地区で少子化が進行している現状に対応した措置でもある。

『南松尾はつが野学園』に通う児童・生徒の居住地区は従来の2中学校区にまたがっているため、かなり広範囲になっています。南松尾小・中学校区域の少子化が進み、児童・生徒が少なくなったため、遠方から通う児童生徒用にスクールバスも運行しています。施設一体型としたのは、先進的な小中一貫教育を目指したことが理由だったのですが、施設



生涯学習センター、図書館、市役所出張所などが揃う「和泉シティプラザ」

一体型・小中一貫教育を魅力的に感じる子育て世代が、少しずつ引越してこられるようになったのです」

「義務教育9年間の『育ちと学び』に一貫性を持たせるには継続・連続した学習指導、生活指導が不可欠で、施設分離型よりも施設一体型の方が、その効果はさらに増すとされている。そして、その施設一体型の南松尾はつが野学園の設置が、エリアの豊かな自然環境とも相まって、子育て世代の親たちの共感を結果的に呼ぶことになったわけだ。

また市内の人口急増地区では、児童が1000人を超える小学校もあるそうだ。そうした大規模の学校区と小規模・中規模の学



トカイナカ和泉の魅力を発信する和泉府中駅前「いずみの国観光おもてなし処」(案内所)

校区での小中一貫教育の比較についても、今後データ的に検証されれば興味深い。さらに将来的に予定されているコミュニティスクール化についても、実現した場合は、同様の観点からの比較検証が待たれる。

防災拠点・新庁舎建設と シティプロモーション

『子育て・教育』施策の強化とともに、子育て世代が安心して暮らせる環境づくりに不可欠なのが防災体制の強化だ。先に少し触れたように、現在基本設計に取り掛かっている段階にあり、2021年6月の完成を目指している新市庁舎建設計画の実現は、和泉市立総合医療センターのオープンとともに、辻市長



「和泉市新庁舎整備基本計画」策定時の市民ワークショップに参加した皆さま

の就任以来の懸案だった。

「現在の市庁舎の1号館は今年で築60年になります。さらにその後の急速な人口増などに伴い、庁舎は増築に次ぐ増築を重ね、現在では計6棟の建物を庁舎としていますが、その大半は耐震性能基準を満たしていません。従って近い将来に高い確率での発生が予測されている南海トラフ巨大地震などへの備えを考えると、防災拠点となるべき新庁舎建設は必然でした。財政的な問題もあり、なかなか取り掛かることができずにおりましたが、昨

年6月には『和泉市新庁舎整備基本方針』を策定。そうして市内全地区の市民代表等の参画によるワークショップや、パブリックコメントの募集などを経て、市民の意見を反映した『和泉市新庁舎整備基本計画』を昨年12月に策定することができました」

新庁舎は現在の市役所敷地内に建設する。旧庁舎を段階的に撤去（3号館のみ新庁舎と一体的に活用）した後、新庁舎は5号館（旧市民会館）の跡地に建設、そのほかの敷地は駐車場などに充てる予定だ。

また新庁舎は7階建てで、低層階（1～2F）に市民利用の多い窓口を集中させ、中高層階（3～7F）にはその他の部署、議場、災害対策本部室などを配する。

「また全館にユニバーサルデザインを採用し、市民交流や情報発信機能の導入などを実施しながら、『市民にやさしい利便性の高い庁舎』『市民の安全安心を支える庁舎』『環境にやさしいライフサイクルコストに配慮した庁舎』を3大基本方針とした整備を進めていきます」

建設工事は来年度から、細部を煮詰める作業もこれからが本番。ニュータウン建設から半世紀近くにはわたりモダンな建物を次々現出させてきた和泉市の新市庁舎が、最終的にどのような装いで誕生するのか、今から楽しみでならない。

また、今後への期待という点では、今年4月、和泉市を含む泉州地域9市4町と関西エアポート株式会社等で構成される「一般社団



テクノステージ和泉から生まれた女子サッカー・和泉テクノFCの練習拠点「関西トランスウェイスポーツスタジアム」

法人KIX泉州ツーリズムビューロー」が発足したことも興味深い。関西国際空港との連携で、国内外の利用者を対象に観光振興を図ろうとする組織だ。関空は9月半ば現在、台風被災からの復旧を鋭意進めている過程のため、KIX泉州ツーリズムビューローの今後の具体的な動きについての予断は控えるが、和泉市にはシティプロモーションのキャッチフレーズ通り、「ココロがトリコ」になりそうな「トカイナカ」の魅力にあふれている。交流人口拡大だけでなく定住化促進も、子育て世代を中心にさらなる飛躍が期待される。人口減少時代にさらなる「躍進」を掲げチャレンジする和泉市の、今後の動きに注目したい。

（取材：文〓遠藤隆／取材日2018年8月23日）